

平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 313

所管部局	福祉部	所管課	健康課	担当者名	小林 早苗
事業名	健康増進事業			事業分類	ソフト事業
細事業名	メタボ予防健診、肝炎ウイルス検診			政策体系	141
会計	一般会計	科目	4. 衛生 - 1. 保健 - 2. 予防		

1. 事業の概要

命に係る心疾患や脳血管疾患等の予防のために、早期からメタボリックシンドロームに着目した健診を実施し、生活習慣病を予防する。
感染症で肝臓がん発症の危険もある肝炎ウイルス検診を実施し、早期発見・早期治療し発病を予防する。

2. 事業の目的と必要性

① 施策で目指す目標との関連付け

市民が自分の健康を自分で守り健康で自立した生活を続けていく為に、市民健診を自身の生活習慣を振り返るきっかけにしよう。

② 事業を実施する必要性

市民が生活習慣病の予防をはかり、健康寿命を延伸させるために必要な導入部分となるのが市民健診である。

3. 事業費の推移

	単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21決算	平22予算	平23計画	平24計画
決算額または計画額	千円	39,369	30,490	10,450	3,016	4,953	4,953	4,953
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円	828	553	511	28	35	35	35
財源内訳	使用料・手数料等	千円	2,791	2,768	186	196	150	150
	国・府支出金	千円	13,580	13,902	3,604	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	22,998	13,820	6,660	2,820	4,803	4,803
職員等の従事人員	人/年	—	—	1.79	0.45			
人件費	千円	—	—	11,364	2,921			
事業費総額	千円	—	—	21,303	5,909			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

特定健診(生活保護世帯) 305,100円
メタボ予防健診 2,615,854円
肝炎ウイルス検診 95,031円

5. 事業結果の概要

メタボ予防検診の対象年齢を30歳から20歳に引き下げて実施。20歳代に55人の受診者があった。
肝炎ウイルス検診はリスクの高い年代の検診が終了しているため、受診者の中で感染者の発見はなかった。

6. 活動の詳細

活 動 内 容	活動日又は時期	活 動 結 果 等
(1) メタボ予防健診		
生活習慣病予備軍の年代である20代、30代を対象に、メタボリックシンドロームの早期発見・予防を目的とした健診を実施。 集団健診のみ実施	集団：4月～6月	メタボ予防健診受診者数 390人（20代：55人、30代：336人）
(2) 特定健診		
医療保険に加入していない生活保護受給者で40歳～74歳の方を対象に、メタボリックシンドロームの早期発見・予防を目的とした特定健診を実施。集団健診と医療機関での個別健診とがある。	集団：4月～6月 個別：1期 5月～7月 2期 8月～10月	特定健診受診者数(生保受給者) 集団：6人、個別：8人
(4) 肝炎ウイルス検診		
40歳の節目の人で、肝炎ウイルス検診を希望される方に実施。集団検診のみ実施。	集団：5月～6月	肝炎ウイルス検診受診者数 集団 45人 ※B・C型とも感染者無

7. 所属長評価 [平成20年度から改善した点、今後の展開など]

メタボ予防健診については、対象年齢を30歳から10歳引き下げ20歳から対象としたため、若干、受診者は増加した。

【参考】過年度の評価

■平成21年度の所属長評価

- ①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点
メタボ対策として市独自で30歳からの健診を実施したが、その年齢の協議を行った。又、すこやか健診の治療中対象者が多い中での有効性・効率性について協議を重ねた。
- ②当該事業のアピール事項
メタボ対策として21年度から20歳からの健診を実施。
- ③反省点、今後の展開・方向性等
市民健診の法的根拠が異なり、市民にわかりにくい健診になっている。理解しやすい内容で啓発を勧めたい。